

学科:再発見！何でも見てやろう

5月 国立国会図書館関西館の探訪

CA 田口 定、山崎 栄一、結城 久、山上 田起子、石黒 洋子、磯山 香洋子

新緑が初夏の青空に眩しい5月は、京都府精華町にある国立国会図書館関西館(以下、図書館と表記)を訪ねました。

殆どの方は、図書館の存在も知らない、どんな特色を持つ図書館なのか知らない、また精華町、そして、最寄り駅の祝園(ほうその)駅への位置、電車ルートもわからない、全て予備知識が無い中での探訪のスタートです。まずは、JR京橋駅から(学研都市線)祝園駅まで快速で42分、祝園駅からは、奈良交通バスで約15分の道のりで図書館に到着です。

集合時間は JR 祝園駅9時20分としましたが、ラッシュタイム、また、見学時間のスタートが

10 時と決まっているために、再三、1本前の電車への乗車を呼びかけた結果、相当数の皆さんが 9 時前に集合されて、バスへの乗り換えも、分乗しながらの出発が円滑に進みました。



国立国会図書館関西館は、近年の東京本館の収蔵量増大も有り、資料の収蔵スペースの確保、高度情報化社会における資料・情報に対する需要対応、近畿圏の大規模な調査研究図書館としての役割を果たすことを目的に、京都、大阪、奈良の三府県にまたがる広大な丘陵地を擁する「けいはんな学研都市」で、2002年10月に開館しました。

現在、国内外の図書は約280万冊、雑誌・新聞の約12万タイトル含めて、1700万点以上の資料を収蔵する大規模図書館内です。「見てまわる」機能の場所は、本館1Fのアジア情報室・総合閲覧室がメインです。各所には、静かに閲覧できるチェア、スペースが準備されています。

そして、閲覧室にプラスした機能としては、研究室が地下1Fに個室 11, グループルーム 3 室が有り、学生、研究者含め多数の方々が利用されていると伺いました。



国会図書館内部の説明に



次の階へエレベーター待ち!!

図書館協力（東京本館と関西館の役割）

東京本館	協力事業の方針策定 国際協力の窓口
関西館	東京本館の方針策定を受けて 次の事業を実施

- ・国内外の図書館員に対する研修交流事業
- ・カレントアウェアネスサービス
- ・図書館及び図書館情報学に関する調査研究
- ・レファレンス協同データベース事業
- ・総合目録ネットワーク事業
- ・ISIL(図書館及び関連組織のための国際標準識別子)事業
- ・障害者図書館協力事業



見学後、受講生の皆さんから「余りにも、数多い資料の種類、量にビックリ！」「とにかく規模が大きい、図書館の多様な機能の重要性を初めて知りました」「日頃は、図書館、書籍に縁の少ない私にとって、久々に活字に触れて、懐かしい気分になりました」「職員の皆さんの、熱心で、丁寧な館内の案内ぶりには、感謝です」など、探訪できた喜びの声、表情を数多く、見聞きすることが出来ました。



さあ、見学後は、仲間同士の楽しいランチタイム です。
カフェテリアが4Fに有り、多数の方が利用されました。ただ、7日、21日は、システム工事が急遽予定に入り、臨時休館なので、その日はロードサイドに多数ある全国チェーンのレストラン、飲食店で、和気藹々と談笑しながらのランチ、コーヒータイムを過ごされました。
学科:再発見は、毎月1回、班ごとに、楽しい交流が、更に進むように願っています。
多少、遠方の探訪で、受講生の方々にとり、朝イチの自宅出発の準備は、大変だったかと推察しますが、多彩な特色を持つ図書館探訪は、記憶に残る一日と推察しています。